

e - 普及だより 低温対策緊急号220420

あれば補修等対策を講じて密閉度を高める。寒さが厳しい場合はカーテンや多層被覆などにより更なる保温対策に努める。

- (4) 育苗については、外気温が低い時期には施設内が多湿となり、病害が発生する可能性があるため、晴天日に短時間換気するなど低温障害に留意しながら換気を行う。
- (5) 土壌が乾燥しているなど灌水の必要がある場合には、日中の温度が高い時間帯に行い、適湿を保つようにする。
- (6) 病害が発生した場合には、速やかに防除を実施する。

6 果樹

(1) 霜害発生前の予防対策

- ・霜害の発生するおそれのある地帯では、霜害警報連絡体制を確認し、防霜ファンや夜間散水用スプリンクラー等の稼働点検を行う。
- ・冷気の停滞は霜害の発生を助長するので、防風樹等で冷気が停滞するような場所は裾部を刈り込む。
- ・燃焼で防ぐ場合は周辺環境に十分配慮するとともに、固形燃料や重油、灯油などばい煙の発生が少ない燃料を使用する。
- ・土壌が乾燥している場合には、散水を行う。散水は日中の温度が高い時間帯に行い、地中へ蓄熱させる。

(2) 霜害発生後の被害軽減対策

- ・霜害発生後、被害を受けた新梢はその後の生育をみて、枯死した部分はせん除する。
- ・蕾、開花中に霜害を受けた場合は、残存花への人工受粉の徹底を図り、結実の確保に努める。
- ・幼果に霜害を受けた場合は、果実の状態を観察後、被害果の判定ができるようになってから摘果を実施する。
- ・結実量が少なく強樹勢になるおそれがある樹では、可能な限り着果させる。副芽や不定芽などから発生した徒長枝は整理し、翌年の結果枝・結果母枝として利用可能な枝は誘引などを実施する。
- ・結実量が少ない樹では枝葉が過繁茂になりやすいため、結実量の減少程度や樹勢に応じて施肥量を減らす。

7 花き

- (1) 発芽期又は定植後の幼苗期は、不織布などの被覆資材などのべたがけ等により地温の上昇等を図る。
- (2) 加温設備のあるハウス施設等では、暖房機の不着火等による低温障害がないよう暖房機具の保守・点検・補修を行う。
- (3) ハウスなどの保温施設では、保温効率を高めるためハウスバンドの緩み、ビニールの破損や隙間などがないよう確認し、必要があれば補修等対策を講じて密閉度を高める。寒さが厳しい場合はカーテンや多層被覆などにより更なる保温対策に努める。
- (4) 土壌が乾燥しているなど灌水の必要がある場合には、日中の温度が高い時間帯に行い、適湿を保つようにする。
- (5) 病害が発生した場合には、速やかに防除を実施する。

8 飼料作物

青刈りとうもろこし等の播種においては、降霜による被害が生じないように気温の動向を見て作業を実施するとともに、牧草収穫や放牧地への入牧は気象及び牧草生育状況に応じて行う。